

〔後奈良院宸記〕天文四年十二月十七日甲辰、青蓮院芳飯申沙汰也、其外三種又デンガク三荷持參、

〔多識編穀〕豆腐皮今案唐布乃宇波。

〔書言字考節用集六服食〕豆腐皮本草

〔毛吹草三安藝〕豆腐姥

〔骨董集上編下後〕おかべ豆腐田樂豆腐上物

俗説に豆腐皮をゆばといふは訛言なり、本名はうば也、其いろ黃にて皺あるが、姥の面皮に似たるゆゑの名なりといへるは、みだりごとなり、異制庭訓往來に、豆腐上物とあるこそ本名なるべけれ、豆腐をつくるに、うへにうかむ皮なれば、さはいへるならん、略てとうふのうはといひ、音便にはもじを濁りて、うばといへるよりおこれる俗説なるべし、ゆばといふも、うとゆと横にかよへば、はなはだしき訛にもあらず、

〔和漢三才圖會百五〕豆腐

豆腐皮 造豆腐釜面上凝皮如檀紙而黃色者、每取之則豆腐不佳、故頻攪廻釜中、要不皮張也、如欲取皮者、數回入鹽鹵汁煮之、荏苒凝結成似皺面皮故名、多取皮之豆腐小硬不可食、仍爲六條、〔重修本草綱目啓蒙十七〕豆腐

豆腐ヲ煎ズル時、面上ニ浮ブ皮ヲスクヒ採リ乾スヲウバト云、又ユバト云、集解ニ謂ユル豆腐皮ナリ、一名腐皮、行厨腐衣、藥性圓、ニ卷テ乾タルヲマキユバト云、物理小識ニ、豆腐燭ト云、四角ニ疊ミタルヲ、絲マキユバト云、細クシテ長キハ長ユバト云、

〔江戸町中喰物重寶記〕亥ぼりゆば 廣ゆば 茶巾ゆば 糸巻ゆば 金糸ゆば 其外色々